科目名：成人臨床看護Ⅳ	必修	1単位(45時間)
(Adult Clinical Nursing Ⅳ)		

履修年次/時期：2年次　前期　　授業形態：講義

主担当教員：棚橋 泰之

主担当教員詳細：実務経験 看護師13年：実務経験および教育経験からがん疾患患者に対する看護を修得できるよう授業展開する。

担当教員名：五百部恵子

学修目的

がん疾患をもつ成人期にある人とその家族に対する看護を学ぶ。がんとともに生活する過程を支援するための概念や理論、具体的な看護援助について、事例を用いて理解を深める。

関連するCP：CP1,CP2,CP3,CP4,CP5　　科目No. KNz-211

この科目が目的としているDP

1. 医療専門職としての倫理観を有する。	(1)生命の尊厳を基盤とし、医療における倫理観を有する。	○
	(2)医療専門職として礼節を重んじ品格を備える。	○
2. 医療専門職として健康問題の発見と課題に取り組む能力を有する。	(1)教養と考える力を身につけ、主体的に課題解決に取り組む能力を有する。	○
	(2)専門的知識や技術を修得し、人びとの健康に寄与できる能力を有する。	◎
	(3)社会の動向に関心をもち、学び続ける力を有する。	○
3. 健康支援を通し、全身の健康を守る看護実践能力を有する。	(1)多様な価値観を持った人びとを理解し、人間関係を築く能力を有する。	○
	(2)優しさに溢れる看護専門職として地域社会に貢献する能力を有する。	○
	(3)看護専門職としての役割と責任を自覚し、多職種と協働できる能力を有する。	○

◎：この講義・演習・実習と最も関連があるDP
○：この講義・演習・実習と関連があるDP

到達目標

1. がん医療の動向(予防を含む)と疫学からみたがんの特徴が説明できる。
2. がんの病態と臨床経過の特徴を説明できる。
3. がんの主要な治療の特徴と必要な看護援助について説明できる。
4. がんと共に生きる人が治療を継続しながら地域でその人らしく生活するために必要な資源と看護援助が説明できる。

授業概要

がんと共に生活する人のセルフケアとその看護を学ぶ。対象の体験や社会的背景を理解し、がんの診断、治療、回復、再発における長い過程を支援するための概念や理論を用い、具体的な実践方法を学ぶ。

評価方法

定期試験　100%
フィードバックは掲示にて行う。

予習・復習時間

【予習】1.9時間
【復習】1.9時間

教科書

① 系統看護学講座 別巻 がん看護学(医学書院)
② 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論(医学書院)
③ 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4]血液・造血器(医学書院)
④ 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9]女性生殖器(医学書院)

参考書

必要時、授業内で提示する。

オフィスアワー 連絡先

在室時は調整し対応。不在時は下記メールに連絡ください。
棚橋泰之：3号館3階 研究室 tanahashi@kdu.ac.jp
五百部恵子：3号館共同研究卒　iyobe@kdu.ac.jp

実施回	第1回	実施日	2026/04/24 (金)	時限	2	班	
授業計画	ガイダンス がん医療の現状と課題の理解 ① がんを取り巻く状況について説明できる。 ② がんの疫学とリスク要因について説明できる。 ③ がんの予防と早期発見について説明できる。 ④ がんと共に生きる人々に必要な支援について説明できる。	予習	テキスト①第1章を通読する。				
		復習	授業内容の振り返りと資料を整理する。				
		キーワード	がん対策基本法、がん対策推進基本計画、がんサバイバー、がんサバイバーシップ、ライフステージ				
授業形態	講義	担当	五百部				

実施回	第2回	実施日	2026/05/08 (金)	時限	2	班	
授業計画	がんの病態と治療・診断の理解 ① がんの生物学的特性について説明できる。 ② がんに特有の病態と症候について説明できる。 ③ がんの診断と治療の選択、看護の役割について説明できる。	予習	テキスト①第2章、第3章を通読する。				
		復習	授業内容の振り返りと資料を整理する。				
		キーワード	がんの発生、がんの転移と浸潤、TNM分類と病期分類、がん緊急症、集学的治療、緩和ケア、がん患者の全身状態(PS)、キャンサーボード				
授業形態	講義	担当	五百部				

実施回	第3回	実施日	2026/05/15 (金)	時限	2	班	
授業計画	がん看護の実際の理解 ① がん患者の治療、看護の実際について説明できる。 ② がん患者と家族への支援について説明できる。 ③ がん看護における多職種連携と看護について説明できる。 ④ がん看護の課題について説明できる。	予習	看護学概論で学習したチーム医療について、授業資料を確認する。テキスト①第4章、第5章通読する。				
		復習	授業内容の振り返りと資料を整理する。				
		キーワード	がん医療に携わる医療チーム活動、症状マネジメント、がん疼痛マネジメント外、来がん看護 、セルフヘルプグループ、がんサバイバーシップ				
授業形態	講義	担当	五百部				

実施回	第4回	実施日	2026/05/22 (金)	時限	2	班	
授業計画	がん患者の看護(1)事例:急性骨髄性白血病 ① 病態生理、治療、検査について説明できる。 ② 化学療法の実際と有害事象への看護について説明できる。 ③ 患者と家族ががんとともに生きていくための支援について説明できる。	予習	テキスト③第5章bを通読する。				
		復習	授業内容の振り返りと資料を整理する。				
		キーワード	意思決定、レジメン、化学療法、抗悪性腫瘍薬(細胞障 害性抗がん剤 分子標的薬)、症状マネジメント、造血幹細胞移植、緩和ケア、家族支援				
授業形態	講義	担当	五百部				

実施回	第5回	実施日	2026/05/29 (金)	時限	1	班	
授業計画	がん患者の看護(1)事例:急性骨髄性白血病 ① 病態生理、治療、検査について説明できる。 ② 化学療法の実際と有害事象への看護について説明できる。 ③ 患者と家族ががんとともに生きていくための支援について説明できる。	予習	テキスト③第5章bを通読する。				
		復習	授業内容の振り返りと資料を整理する。				
		キーワード	意思決定、レジメン、化学療法、抗悪性腫瘍薬(細胞障 害性抗がん剤 分子標的薬)、症状マネジメント、造血幹細胞移植、緩和ケア、家族支援				
授業形態	講義	担当	五百部				

実施回	第6回	実施日	2026/05/29 (金)	時限	2	班	
授業計画	がん患者の看護(1)事例:急性骨髄性白血病 ① 病態生理、治療、検査について説明できる。 ② 化学療法の実際と有害事象への看護について説明できる。 ③ 患者と家族ががんとともに生きていくための支援について説明できる。	予習	テキスト③第5章bを通読する。				
		復習	授業内容の振り返りと資料を整理する。				
		キーワード	意思決定、レジメン、化学療法、抗悪性腫瘍薬(細胞障 害性抗がん剤 分子標的薬)、症状マネジメント、造血幹細胞移植、緩和ケア、家族支援				
授業形態	講義	担当	五百部				

実施回	第7回	実施日	2026/07/02 (木)	時限	3	班	
授業計画	がん患者の看護(2)事例:乳がん ① 病態生理、治療、検査について説明できる。 ② 手術、薬物療法、放射線療法を受ける患者の看護について説明できる。 ③ 外来がん看護について説明できる。 ④ 壮年期にある患者とその家族ががんとともに生きていくための支援について説明できる。	予習	テキスト④第5章 B 7-1を通読する。				
		復習					

	て説明できる。	キーワード	
授業形態	講義	担当	棚橋

実 施 回	第8回	実 施 日	2026/07/02 (木)	時限	4	班	
授業計画	がん患者の看護(2)事例:乳がん ① 病態生理、治療、検査について説明できる。 ② 手術、薬物療法、放射線療法を受ける患者の看護について説明できる。 ③ 外来がん看護について説明できる。 ④ 壮年期にある患者とその家族ががんとともに生きていくための支援について説明できる。	予 習	テキスト④第5章 B 7-1を通読する。				
		復 習					
		キーワード					
授業形態	講義	担当	棚橋				